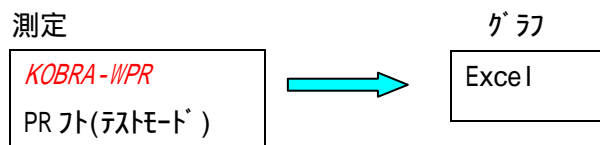


5. 偏光板+位相差板 R50 の方位 45° における入射角に対する楕円率・楕円方位角の変化(実測)



ポイント;PR フットのメニュー 3.テストモードを使用しますが、偏光子 P1 だけでなく偏光子 P2 も取り外します。試料には、偏光板と位相差板 (Re=50nm) の貼合品を用い、偏光板の透過軸と位相差板の遅相軸とが平行の場合と直交の場合について測定しました。予め入射角 0° のときに、試料の偏光板透過軸がほぼ 0° になるように調整し、偏光板を上側にしてサンプルホルダに挟み、試料傾斜台にセットします。

測定時の条件は、以下のように設定します。

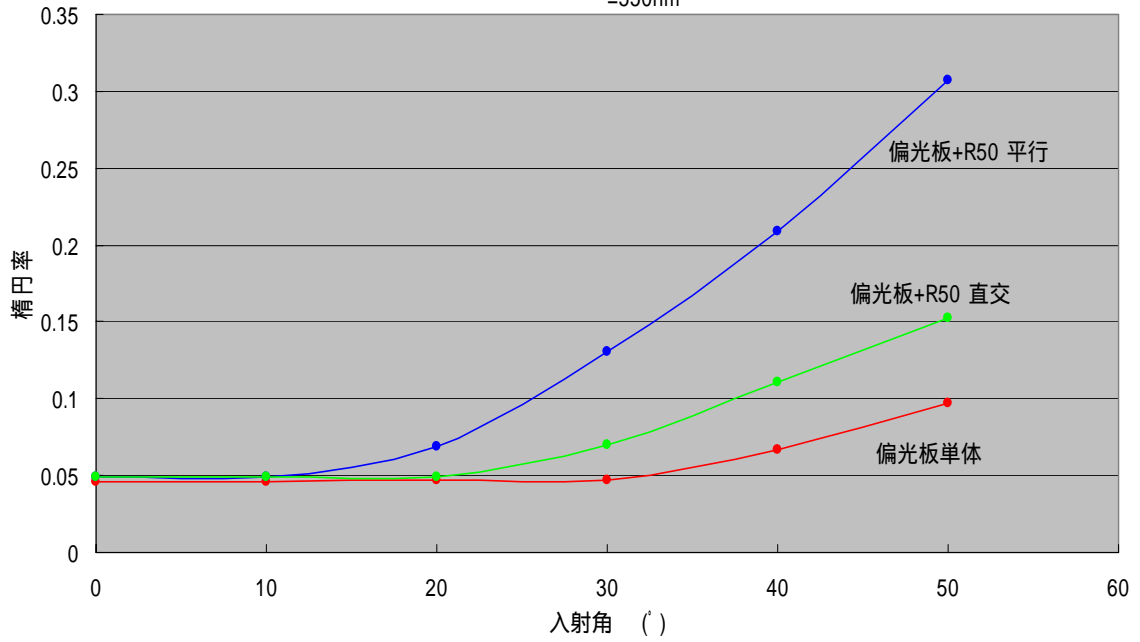
測定法	回転検光子法		
入射角範囲	0	50	10
方位角範囲	45		
入射偏光方位	0		

測定結果

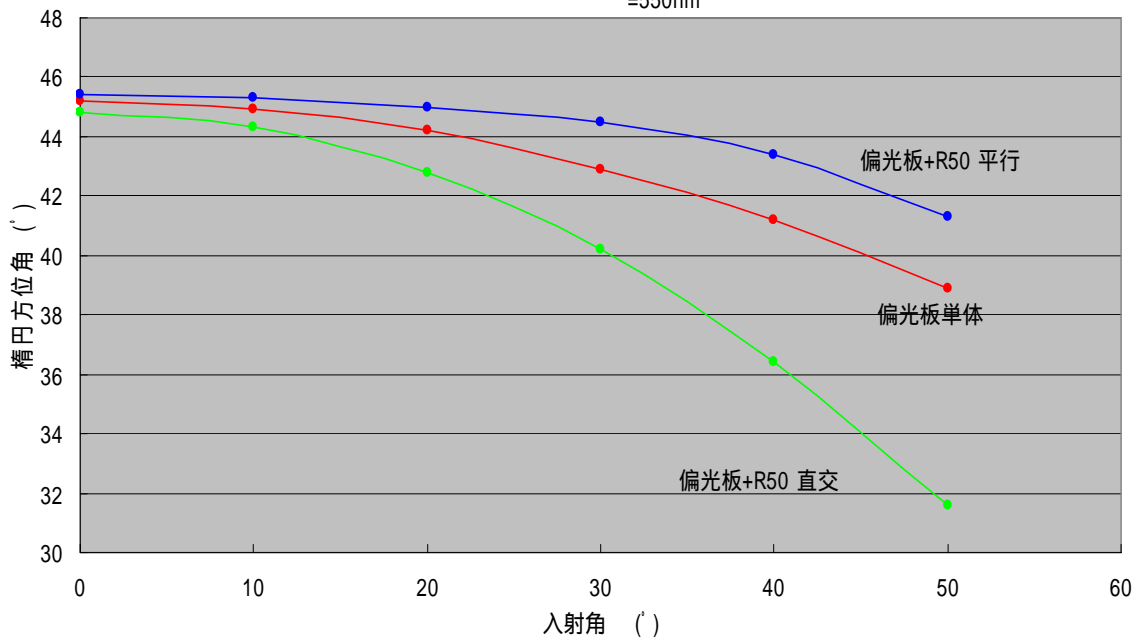
比較のために偏光板単体についても測定し、波長 550nm の測定結果をグラフにまとめると、次の図のようになりました。

偏光板単体を基準にすると、楕円率については貼合品の透過軸と遅相軸が平行のときに変化が大きく、一方楕円方位角については貼合品の透過軸と遅相軸が直交のときに変化が大きいことがわかります。

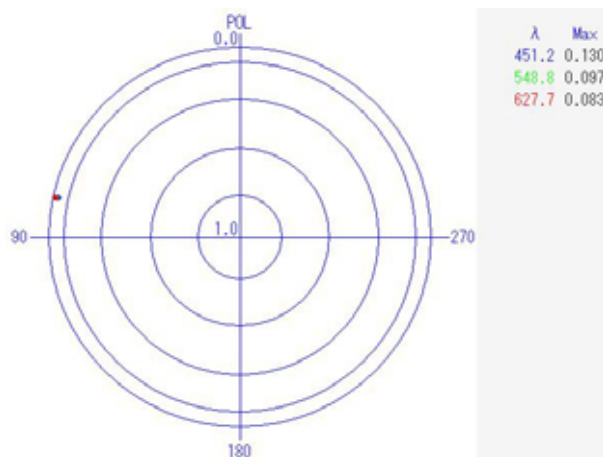
方位45° 入射角に対する楕円率の変化
=550nm



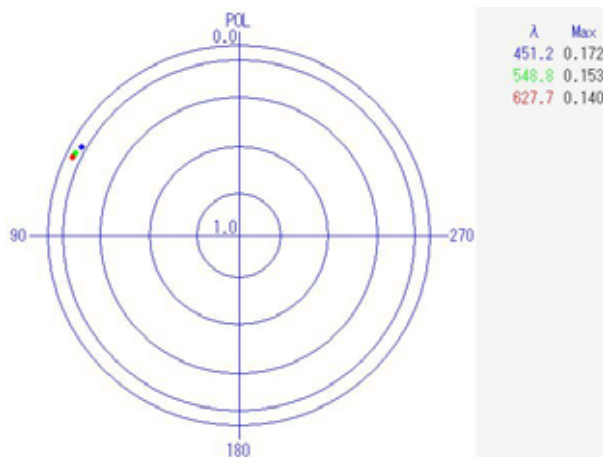
方位45° 入射角に対する楕円方位角の変化
=550nm



偏光板+位相差板 R50 / 方位 45°、入射角 50° のときの偏光状態比較
偏光板単体



偏光板+位相差板 R50 (透過軸 遅相軸)



偏光板+位相差板 R50 (透過軸//遅相軸)

